

オアシスの森くらぶ

ニュースレター17号 2003. 2. 8発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会

発行人 永田 修二

編集人 近藤 眞史

編集長 五十川 幸夫

1月定例活動 「木登りと枯れ枝管理」

頁号 浩二

今年最初の定例活動となった1月25日は冬の日差しがまぶしい、よく晴れたお天気でしたが、冷たい北風が身にしみる一日でした。そのせいもあってか、参加者は10名ほどでやや寂しい集まりとなりましたが、この日の講師としてお越しいただいた「ツリーハガーズインターナショナル」のメンバーは総勢8名で、全体としてはにぎやかな活動となりました。ツリーハガーズ代表の氏福さんらは、木登りでよく知られる、あのジョン・ギャスライト氏率いるツリークライミングジャパンから独立して活動を展開されており、これまでもオアシスの森くらぶの「どんぐり祭り」や天白プレーパークなどではすでにおなじみの方々です。

クライミングギヤと呼ばれる道具を使って木に登る方法で、もともとアメリカで樹木の枯れ枝管理のために開発された技術だそうです。アメリカの樹木医はこの木登り技術の修得が義務づけられているということです。



▲木登り体験を楽しむ参加者たち

枯れ枝の管理は、オアシスの森くらぶでもこれまで行ってきましたが、高い位置の枝になるとなかなか手が出せないのが現状です。特に「集いの広場」や散策路の上部にある枯れ枝などは危険で気になっていたところで

した。

ツリーハガーズの皆さんが普及を進めているこの木登り技術は、このような樹木管理の目的だけでなく、木に登ること自体とても楽しい体験になります。高い木の上で見る森の風景には、また格別のもがあり新しい発見もあります。

一部には、「木登りは木にとっては良くないことだ」と苦言を下される方もみえますが、ロープの掛け方や使用する道具は木にダメージを与えないよう配慮されたものですし、何よりも、森の魅力や森の大切さが分かる「森の仲間」を広げていくためには、このような樹との生のふれあいや森に関わる実体験がますます大切になってくるのではないかと考えています。そんな意味からも、子どもからお年寄りまで誰もが安全に木登りできるこのような活動がさらに普及していったらいいと思います。



追伸

この日は、野浪さんがお餅を差し入れて下さり、お昼に参加者たちにふるまってくれました。

味は最高、体もあったまる…、野浪さん、本当にごちそうさまでした。



▲参加者に木登り技術や道具の説明をするツリーハガーズの氏福さんほか、メンバーの方たち



▲お昼には野浪さん作の竹炭と餅が寒い体を温めてくれました

10月定例活動 「第4回 どんぐり祭り」

10月の定例活動は、毎年恒例の「どんぐり祭り」です。

4回目を迎えた今年のどんぐり祭りは、曇り一時小雨といったあいにくの天気となりましたが、家族みんなが楽しめるメニューがいっぱいの楽しいイベントに、親子連れなど多くの参加者がオアシスの森の秋を満喫しました。

特に、今回は中島さんのお知り合いの後藤さんによる“木の実オブジェづくり”やツリー・ハガーズ・インターナショナルを指導者に迎えての“木登り体験会”を初めてメニューに取り入れ、どちらも超人気を博していました。

ただ、逆にこれらの人気メニューに参加者が集中し、他の恒例のメニューがややかすんでしまったようにも見えただのが少し残念だった気がします。

次回は、これらの反省点もふまえてより楽しいイベントづくりをしていきたいですね。
(近藤眞史)

木登り体験会



ドングリみこし

みこしは昨年同様、思い思いに木の実や葉っぱを貼ったりして飾り付けた後、展望台付近まで子どもたちががついで練り歩きました。

八事の蝶々ワークショップ



森のレストラン



森のコンサート



森のコンサートでは、蛭川さんのオカリナと尾上さんのアコーディオンの演奏が披露されました。

森に響きわたる調べに、みんなが聞き入りました。

ドングリの背比べ選手権



天気のせいもあって、少々盛り上がり欠けたものの、優勝者らはコナラの木のトロフィーを手にしてニッコリ。

木の実オブジェづくり

木の実オブジェづくりは、講師として中津川の後藤さんに来ていただきました。

苦労して集めた松かさやどんぐり、流木、豆、とうがらし、落花生、花や木の種を提供して下さり、大人も子どもも夢中になって大盛況でした。
(中島ひろみ)



▲木の実オブジェの見本として並べられた作品たち。
参加者たちはこれらを参考に、思い思いの作品づくりに励んだ。

森の観察会

参加者に問題と地図を渡し、セルフガイドで森を歩いていただきました。中には質問に書いてあった木の実を全部採ってきて、答と合わせたり、シャシヤンボの実を味わったり、オアシスの森の木の木の豊富さに感激されていました。
(横井邦子)

11月定例活動「里山体験会」

11月23日 天白土木事務所との共催による「里山体験会」が開催された。

前回までは8月の蒸し暑く蚊の攻撃を受けながらの、観察会であり不評であったので、土木事務所との協議の末、今回から紅葉が美しく活動しやすい11月に変更となった。前回と異なり、数ヶ月以上前から両者で打ち合わせを行い、森くらぶからの意見、要望を明確にし開催にこぎつけた。当日は好天に恵まれ申し込みキャンセルも少なく好評であった。(永田修二)



▲はじめに集いの広場で開会式を行う。準備体操で体をほぐした後、班別に紅(黄)葉真っ盛りの森を一回りした。

“午前の部：森を歩く”

小春日和の暖かな午前中。II班の親子グループは集いの広場の西側からはじめた。

集いの広場から見て右側は神の領域。私たちが立っているところは生き物の領域です。つい手にしたくなる紅い葉にはくれぐれもご注意を。展望台に登れば雪を抱いたオンタケサンガ……。下を見れば全山紅葉、黄葉となんと素晴らしいことか……。このメカニズムの説明を……。

赤松ののぞき窓まで行く途中にある、朽ちかけたビートルアパートに寄りこここで一言、この説明を聞いていた小六の女の子がそばに目を移して、ヤママユを見つけてくれた。「この繭をたくさん集めて染めて、織ってスカーフにしている方がいるのよ。この相生山にもたくさんぶら下がったらいいネ。そっとして置きましょう。」こちらの言葉に少々不満そうだったが、これも森の掟。

赤松の再生の場所で、マツの2才・3才の坊や探し。もちろん樹名札もみんなでつけた。この場所の樹名を区別する「科」が13程ある。

大急ぎで下山し、トンボ池の囲いでキチジョウソウの花が。今花が少ないときに咲くめでたい事と、色の鮮やかさを感じてもらおう、又、池のトンボのヤゴにも目をやった。全員確認できたので、炭焼き小屋へダッシュ。間伐の竹を利用していることや、火入れまでのご苦労等聞いて、元の集合場所に戻った。

森の中へ入ったときの顔と、出てきたときの顔は笑みをたたえた穏やかな顔に変わっていたのは、竹や樹木の精？(鈴木ひろ子)

“午後の部①：柴刈り体験”

フィールドワークの部は、相生口に近い竹林での除伐作業で、最初に真弓さんから竹林の正しい管理についての説明を受けた後作業に入りました。

今回は除伐した後の枝払いや竹材の片付けも完璧に行ったため、竹林はま

さに「名古屋の嵯峨野」？に変身しました。

また、切り出した竹は切りそろえて相生口近くに集め、希望者に自由に使用してもらえるようにしました。

(大館 学)



“午後の部②：森のクラフト”

クラフトの部は、集いの広場で作品のサンプルの紹介から開始。フィールドワークが竹伐りであることから、竹を素材としたクラフトとした。竹炭の黒とカラスウリの朱赤のコントラストが冴える壁飾り、かわいいクマの壁飾り、ゆらゆらゆれるカタツムリ、花入れ、水鉄砲などなど。

参加者には見本にこだわらず、自由に作成してもらった時間帯とした。慣れない手つきでノコギリと格闘するのは、子どもも大人も同じ。

終了時には作品を2点・3点と手にして、にっこりする人もいた。

(近藤記巳子)



▲竹林での除伐作業。この後、鬱蒼とした竹林は「名古屋の嵯峨野」に。

森の住人たち ～ウグイス～

ウグイス 全長
ウグイス科 ♂16cm ♀14cm

分布 全国の低地から山地
餌 クモなどの小昆虫など



「チャッチャッチャッ」木の茂みで鳥の声。「この声は……」観察会の参加者の女性が問かけてくる。

「たぶん、よ～く知ってる鳥ですよ」と、まずは第1ヒント。スズメ、カラスなどおなじみの名がでるが、解答につながらない。

「でも、その鳥は今の鳴きかたとおそらく違うはず。これが第2ヒント」参加者同志、顔を見合わせるばかり……。

「春先にこの鳥の名前の和菓子が売り出されますよ」と、全く違う角度からの第3ヒント。

「あっ、ウグイス!ですか」質問した彼女が目大きく見開いて答える。

ウグイスといえば「ホーホケキョ」と鳴くもの。しかし、この鳴き方は繁殖期のいわゆるラブソングである。その季節以外は地鳴きあるいは笹鳴きといわれる「チャッチャッチャッ」と鳴く。頭～背中全体は灰色っぽい黄緑褐色で、いわゆる和菓子の鶯餅の黄緑色ではない。

ウグイスの初鳴きは、人の心を暖かな春が巡ってきた喜びで満たす。「春告鳥」ともいわれるそのさえずりを、今年はいつ聞くことができるだろう。

(文責 近藤 記巳子)

12月定例活動 「門松づくり」

村田 英二

年の瀬も押し詰まった12月28日(土)。
12月定例会は、今年も恒例の門松づくりを行いました。

年末のせいか朝10時の集合時間にはほんの数人。今日は大丈夫かなと思っているうちにぼつぼつ集まってきました。

小池さんと真弓さんは看板の設置に出かけ、本当に少人数でしたが、見学にはいっちゃった親子づれ(名前を忘れてすみません)にも手伝ってもらって、竹を切り出し・切り揃え作業を始めました。

そのうちに永田さんが到着して台座の製作に取りかかります。

作業は順調に進み、適当なところで午前中の作業を切り上げました。

昼からは台座設置から始まる門松づくり。平行して松や裏白等の飾り物も山の中で調達します。皆さんさすがに恒例行事だけあって手慣れたものです。

最後は中島さん、松葉さんの女性2人が左右に分れて飾り付けをしてくれました。

私の見たところでは左右の門松共にそれぞれの個性が感じられて良い出来映えだったと思います。

いつのまにか作業に出かけた小池さん達も合流し、門松が出来上がったと

ころで恒例の記念写真。

皆さん良い年を迎えられたことでしょう。

追伸

今年の門松は中島さん持参の葉牡丹で昨年までとはひと味違った出来映えでした。次回もよろしくお願いします。

▶ 恒例となった門松との記念写真。
年々出来が良くなって、みんな満足気。



定例活動スケジュール

集いの広場
10時集合

2月22日(土) 鳥の来る森、来ない森 (古澤講師)

3月22日(土) 第5回 萌え木祭り

4月26日(土) 平成15年度総会&小屋周辺管理

(以降は暫定案であり、総会で決定します。)

- 5月24日(土) 相生山緑地探検
- 6月28日(土) トンボ池周辺グレードアップ作戦
- 7月26日(土) 森のレスキュー
- 8月23日(土) クラフト講座
- 9月27日(土) 森の枯れ木管理とキノコ
- 10月25日(土) 第5回どんぐり祭り
- 11月22日(土) 竹林管理と竹炭焼き
- 12月20日(土) 松竹梅と野辺の小径・山根口クリーンアップ
- 1月24日(土) ツツジのグレードアップ柴刈り
- 2月28日(土) アカマツ林再生
- 3月27日(土) 第6回萌え木祭り

*平成15年度の活動では、こんなことがやってみたい、もっとこういうことした方がいいんじゃない・・・等々、意見や希望がありましたら、総会までにどんどん提案して下さい。

会員募集中!

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

◆会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。

◆振り込み先(郵便局)

オアシスの森くらぶ 00860-7-33725
連絡は事務局までどうぞ

森くらぶ 情報センター

■参加申込みやお問合せなど

事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島己治男 052-803-9534

■ニュースレターをメールで配信

申込先
e-mail: isoiso@eva.hi-ho.ne.jp
e-mail: masashi_k@muf.biglobe.ne.jp

■ホームページをご覧下さい

e-mail: yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp
URL address :
<http://www.ami.hi-ho.ne.jp/yoji-toyo/mori-club/oac-index.html>